

# 有珠山噴火と「ぎょさい」

～浮き彫りになった災害対策としての加入の必要性～

去る3月31日、北海道の有珠山が23年ぶりに噴火し、住民が避難を強いられるなど、現地では多大の被害が生じています。

漁業については噴火湾沿岸の豊浦・虻田・有珠・伊達・室蘭の5漁協において、基幹産業であるホタテ貝養殖業が噴火の影響を受けることが懸念されています。

関係漁協の「ぎょさい」加入状況を見てみると、主要な漁業であるホタテ貝養殖業については地まきで1漁協、養殖で1漁協が加入しているだけです。

平成7年の特定養殖共済制度導入後、行政の応援を得ながら加入推進を行っており、また昨年4月にスタートした『パワーアップぎょさい21』運動においても、特にほたて貝養殖業を重点推進目標として掲げ、加入実現に向けた取り組みを強化し、「ぎょさい」説明会の席上、23年前の噴火時にはホタテ貝が大量へい死し、水揚が半減したことを説明するなど、有珠山噴火の可能性も危険要因の一つとして加入をすすめてきたところがあります。

しかしながら、ホタテ貝養殖業は近年安定した生産を続けていることもあり、「ぎょさい」加入の必要性についての理解がいま一步すすまず、加入には至っていませんでした。

「ぎょさい」加入が実現していたら、きっと現地の漁業関係者にとって心強いものとなっていたことでしょう。

「ぎょさい」団体としては今回の噴火を教訓とし、漁業者が安心して漁業経営を続けていけるよう、『被災者に「ぎょさい」未加入者なし』を合言葉に、より一層「ぎょさい」推進に努力していく所存です。

最後になりましたが、有珠山の噴火活動が早期に沈静化するよう、また漁業被害が出ないようお祈りしたいと思います。